

マルコの福音書 12:13-17 キリストに従う者の二重国籍

先週、宮でイエスのところへやって来て、イエスを罠にかけ、その発言によってイエスの信用を失わせようとした最高法院のことを覚えておられるでしょうか。12章34節までの残りの大部分では、ユダヤ人の宗教と市民生活の大部分を支配していたサンヘドリンと呼ばれる最高法院を構成する3つのグループすべてから試されることになります。今日の聖書箇所であるマルコの福音書12:13-17では、パリサイ派と呼ばれるグループからまず最初に試されています。この話に始まり、パリサイ派、サドカイ派、律法学者の3つのグループがそれぞれイエスを試すために質問しています。パリサイ派は税金についての質問を、サドカイ派は復活についての質問を、そして律法学者たちは聖書解釈について質問をしました。最後の質問について取り上げるのは年明けになるでしょう。先週見たように、イエスは質問されるごとに、ヨハネのバプテスマで確立され、そのミニストリー全体に渡るご自分の権威を示されました。そして今、これらのグループがイエスに質問しようとしようとしている背景に何があったのかを思い出してみてください。マルコの福音書12:12では、何がこの対立につながっていったのかについて次のように述べています。「12 彼らは、このたとえ話が自分たちを指して語られたことに気づいたので、イエスを捕らえようと思ったが、群衆を恐れた。それでイエスを残して立ち去った。」彼らは、社会におけるイエスの影響力を弱めるために、イエスを捕らえる理由を探していました。その目的のために、これら3つの対立が起こるのを見るわけです。本日の聖書箇所であるマルコの福音書12:13-17を読み、パリサイ人達との最初の対立を見てみましょう。

「さて、彼らはイエスのことばじりをとらえようとして、パリサイ人とヘロデ党の者を数人、イエスのところに遣わした。14 その人たちはやって来てイエスに言った。「先生。私たちは、あなたが真実な方で、だれにも遠慮しない方だと知っております。人の顔色を見ず、真理に基づいて神の道を教えておられるからです。ところで、カエサルに税金を納めることは、律法にかなっているのでしょうか、いないのでしょうか。納めるべきでしょうか、納めるべきでないのでしょうか。」

15 イエスは彼らの欺瞞を見抜いて言われた。「なぜわたしを試すのですか。デナリ銀貨を持って来て見せなさい。」16 彼らが持って来ると、イエスは言われた。「これは、だれの肖像と銘ですか。」彼らは、「カエサルのです」と言った。17 するとイエスは言われた。「カエサルのものはカエサルに、神のものは神に返しなさい。」彼らはイエスのことばに驚嘆した。」

先週は、イエスが最高法院と対立する場面を見ました。イエスが神の権威を持つものしかできないことをしていることについて、その権威はどこからくるのかという神学的に問うことで、彼らはイエスに対立しました。これに対して、イエスは彼らの裏をかいてそのたくらみを指摘されました。神学的な質問によってイエスの信用を失墜させ、彼を捕らえる理由とできないのであれば、別のアプローチが必要だったのでしょう。パリサイ人達がとった次のアプローチは、ローマ政府に対してイエスの信用を失わせるような何かを見つけ、市民としてイエスを捕らえ罰する理由を見つけることでした。ですから、パリサイ人達がヘロデ党の人々と共に対立に加わったのは納得がいきます。ヘロデ党の人々は本来、ローマ帝国の支配者であるヘロデに同調する人々の政治政党でした。そのローマとの連帯ゆえに、ローマ支配に敵対するパリサイ人たちとは対立する存在でしたが、イエスに対する憎しみが宗教的グループであるパリサイ派との相違を上回るものであったことは明らかです。前回同様、これは真摯な質問ではありませんでした。13節で明らかのように、彼らが意図していたことは、イエスの発する言葉尻を捕らえて罠にかけることでした。イエスが政府に反抗する反乱分子として罪に問われるような発言をすることを望んでいたのです。当時録音装置があったとしたら、間違いなく装置をオンにして、イエスが何か違法なことを言おうものなら、政府関係者に証拠として出せるよう、その言葉をすべて録音する準備をしたことでしょう。

もちろん、もしイエスがほんの少しでもローマ政府をけなすような答え方をしたなら、即座に彼を捕らえる道が開けたことでしょう。ですが、この質問はジレンマを含むものでした。イエスがローマに税金を納めるべきだとはっきり答えれば、イスラエルの人々の目にイエスの信用は崩れ去ったでしょう。つまり、どちらの答えであってもパリサイ派、ひいては最高法院にとって望まし

い結果を得ることができたわけです。ですから、彼らはイエスに警戒心を解かせようとした。14節でイエスにおべっかを使って近づき、「先生。私たちは、あなたが真実な方で、だれにも遠慮しない方だと知っております。人の顔色を見ず、真理に基づいて神の道を教えておられるからです。」と話しかけました。面白いのは、彼ら自身はそう信じていないにも関わらず、まさにそれが真実であることです。そして、イエスについて語られたその言葉は実際に真実なのですから、「人の顔色を見ず」に、彼らのお世辞に騙されることもなかったことを15節に見ることができます。「イエスは彼らの欺瞞を見抜いて言われた。「なぜわたしを試すのですか。」サムエル記第一16:7は主が「人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」と思いき起こさせてくれます。神の子は偽りのお世辞に惑わされることはありません。キリストは彼らの心の中にある真意を知っておられたからこそ、誰もご自分を非難することができないような答え方をされ、それと同時に国籍という点においてキリストの弟子としての在り方について私たちに教えてください。15節からもう一度見てみましょう。「デナリ銀貨を持って来て見せなさい。」イエスがデナリ銀貨について特に語っておられるのは、議論に上っていた税が、ローマのすべての人に毎年課せられる人頭税だったからです。この全員に課せられた税は西暦6年に導入され、多くの人に疎まれました。税額は一人1デナリでしたが、当時のイスラエルとパレスチナで1デナリは平均的な一日分の賃金でした。つまり、一年を通して支払っている他の税金に加えて、ローマ帝国の人々は皆、実質的に一年のうち一日は皇帝のために働いているに等しかったわけです。けれど、このデナリ銀貨にはイエスが指摘したユニークな特徴がありました。16節にはこのようにあります。「16 彼らが（デナリ銀貨を）持って来ると、イエスは言われた。「これは、だれの肖像と銘ですか。」彼らは、「カエサルのです」と言った。デナリとは当時の銀貨で、片面に当時の皇帝ティベリウス・カエサルの肖像が描かれ、「ティベリウス・カエサル・ディヴィ・アウグスティ・フィリウス・アウグストゥス」（ティベリウス・カエサル・アウグストゥス、神聖なるアウグストゥスの子）と書かれていました。コインの裏側には、ティベリウスの母リヴィアの肖像と、「大祭司」を意味する「ポンティフェクス・マクシムス」の文字が刻まれていました。そこでイエスはこの事実を用いて、17節で彼らにある点を突きつけます。「17 するとイエスは言われた。「カエサルのものはカエサルに、神のものは神に返しなさい。」シーザーがこの貨幣を求めるなら、彼に渡してください。彼の肖像が描かれているのだから。けれど、人々を真実の神から遠ざける不誠実な宗教指導者たちよ、神に属するものは神に差し出しなさい。イエスは既に宮で捧げられている偽りの礼拝を非難していたことを思い出してください。イエスはパリサイ人達が旧約聖書の律法を守っていることを見せようとする礼拝の偽善性と律法主義的なプライドを繰り返し指摘してきました。17節の最後に「彼らはイエスのことばに驚嘆した。」とあるのも当然です。他に何ができたというのでしょうか。イエスはまたも、ご自分を困らせようとする彼らの明らかな企てを、彼らを非難するために、また聞いている者があればその人たちへの教訓に変えたのです。しかも、多くの人を怒らせるような直接的な答えを出すことなくです。

ですがこれは、宗教指導者たちを愚かに見せるために、イエスが言葉や例えを用いた見事な方法についての素晴らしい話というだけではありません。イエスはこの個所で、神の民と呼ばれる者たちに常に適用される真理を教えておられるのです。つまり、この個所には今日の教会にも適用されるべき変わらぬ真理があるのです。もちろん私たちはローマ帝国に住んでいるわけでも、お金としてポケットにデナリを入れているわけでもありません。ですが、私たちはどこかの国の国民であり、観光ビザで日本を訪れているのでない限り、現在のところは皆、日本という国の住民なのです。では、イエスは税金についてこの短いコメントの中に何か伝えたいことがあったのでしょうか。もちろんあります。最も分かりやすいのは、イエスが政府には税金を徴収する権利があるということを明確に述べていることです。ただ、イエスが言っていることはそれを超えています。政府の下にある神の民には、税金を払うことを拒否する権利がないということをイエスは言っているのです。「でもベンさん、私が納めた税金が悪いことに使われている場合はどうですか。」という方もおられるかもしれません。帝国を拡大するために戦争を続け、道路や水道橋や建物を建設するために強制労働を強いていたローマ政府が、その当時であっても道徳的に良いことに税金を使っていたとは思いません。デナリ銀貨が戦争や奴隷制度のために用いられていた時で

さえ、イエスは、カエサルのはカエサルに返しなさいと言われたのです。ですが、ここにはこの真理の更に大きな意味するところがありました。ローマが占領していたどの土地にも、ローマ政府に対する反乱を起こしてローマの権威から何としても逃れたいと望むユダヤ人やその他の民族のグループがありました。イスラエルにいたそのようなグループが熱心党という人たちで、イエスご自身の弟子の一人は元はそのグループの一人である熱心党員シモンと呼ばれていた人でした。イエスのこの発言は、彼に従う者たちは政府に対して反抗的な群れの一員であってはならないという意味もあったのです。聖霊の靈感のもと、使徒パウロはローマ人への手紙 13 章で、この点について多くを述べています。そこで神はパウロを通してローマ 13:1-2 でこのように言われました。「人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。したがって、権威に反抗する者は、神の定めに従う逆らうのです。逆らう者は自分の身にさばきを招きます。」

ですが、イエスの言葉には 2 つ目の点がありました。それは、この世におけるあらゆる政府が果たすべき役割で、世にある政府の下に生きる市民として私たちが果たすべき役割における優先順位を定めるものです。イエスは、カエサルのはカエサルに、神のものは神に返しなさいと言われます。これら二つの考えを同時に伝えることで、イエスはこれらの間に関係性があることを示しておられます。シーザーにとって、神がおられるということを知ること、ある意味この地上での力には制限があることを意味します。それは、どんなに大きく、どんなに強くとも、地上のいかなる力も神の力には到底及ばないからです。事実、ローマ人への手紙 13 章では、この世のすべての力や政府のもとには神ご自身によることが分かります。私たちが思いつく最悪の指導者たちでさえ、全能の主権者である神によって立てられたものでなければ存在しえなかったのです。では、私たちクリスチャンは、たとえそれが私たちに迫害するものであったとしても、政府をどのように見ることができのでしょうか。神によって立てられ、この世における神の王国と栄光を前進させるために、何らかの目的のために神によって用いられていると見ることができます。数週間前に、ローマ帝国の迫害を終わらせるためにコンスタンティヌス帝が果たした役割について触れました。ローマ帝国の迫害を受けながらも、数字的にも成長し、聖書的に聖く健全な成長を遂げた教会と、全ヨーロッパを支配するようになったものの、キリスト教が国教となり、事実キリストに従う者以外にも属するようになった教会とでは、どちらがより神に栄光を帰することができたのでしょうか。ローマのコロシムで死ぬことになっても、クリスチャンとしてイエスに従うことの意味を示し、神に栄光を帰したのは、迫害された教会だったのではないのでしょうか。今日、日本やアメリカの教会の多くで見られるぬるま湯のようなキリスト教は、神により多くの栄光をもたらすのでしょうか。それとも、中国や北朝鮮、バングラデシュ、イランといった国で、政府から公に制裁を受けている教会の方でしょうか。世の暗闇に最も明るい光を照らすのは、困難な場所にある教会であることが多いのは恥ずべきことです。私たちの第一の目標は、与えられた自由な時間を使って、その自由があるうちに、福音宣教を通して神の栄光を可能な限り前進させることであるべきです。そして、二番目に、その自由が奪われる日が来たとしても、たとえカイザルから私たちの礼拝が違法だとされても、神のものは神に返し続けることを決意することです。

ユスティヌスは紀元 2 世紀のキリスト教神学者でローマ皇帝にクリスチャンの迫害を止めるよう説得するために「第一弁明」を書きました。彼は、マルコの福音書のこの箇所を引用して、クリスチャンにとってキリストに従うことは、カイザルに従いながらも神への礼拝を守ることを意味し、帝国において最も優れた市民となり得ることを指摘しました。彼はこう書いています。私たちはどこにおいても、あなたが任命された者に、普通税も目的税も進んで納めるよう努めています。それは神にそうするようにと教えられているからです。あるとき何人かがキリストのもとに来て、人はカイザルに税金を納めるべきか尋ねました。するとキリストは「コインに刻まれているのは誰の肖像か」とお聞きになりました。彼らが「カイザルだ。」と答えると、「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい。」と言われました。ですから、私たちは神にのみ礼拝を捧げますが、他においては喜んであなたに仕え、あなたを人の王であり支配者として認め、王としての力と正しい判断力が与えられるよう祈ります。けれど今日、弁証家ユスティヌスを私

たちが殉教者ユスティノスとして記憶しているのには理由があります。彼は自分の命をかけて礼拝する宗教的自由を求め、西暦 162~168 年頃にイエスに従ったために処刑されました。クリスチャンとして、私たちは二つの世界に属する市民であり、私たちがどのように、誰を礼拝すべきか強制されない限りは、どこまでも市民として国を支持します。

国家は硬貨に人の像を刻みますが、神はご自分の姿を人の心に置かれました。デナリ銀貨にはカイザルの肖像が刻まれていましたから、国家が税金を払えというなら、国家には徴税する権利があり、私たちには納税する義務があります。ですが、同じ国家が人に対して、ある特定の 방법으로礼拝しなくてはならない、もしくははしてはならないという時、創られた者として私たちの心には別のイメージが刻まれています。創世記 1:27 には「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。」とあります。国家は私たちに金銭を求めますが、神は私たちに人生を求められます。創造主として神を褒め称える礼拝を私たちに求められます。神のものを神に返すとは、何よりも神を礼拝し、神に仕えることを意味します。皆さんは神を礼拝していますか。イエス・キリストを主であり救い主として受け入れておられますか。なぜなら、それが父なる神の御前に進み出て、礼拝するための唯一の道だからです。神を礼拝する者として、この国において神から与えられた自由を用いて、自分が誰の似姿であるかを世に示しておられますか。それとも、周りからどう思われるか、友を失うかもしれないことを恐れて、それを隠しておられますか。キリストを分かち合うことが制限されている社会で、毎日福音を伝えるために出かけている教会が世界中にあります。そして、成長を続けています。彼らと共に、私たちがその似姿とされている王の王、主の主に従って、この世の国家に従いつつも、二つの王国に属する市民として、福音を宣べ伝えていきませんか。祈りましょう。

Mark 12:13-17 The dual citizenship of a Follower of Christ

Remember last week, we were introduced to the Sanhedrin who confronted Jesus in the temple and were looking for a way to trap him and discredit him in his words. Now, for most of the rest of chapter 12, through verse 34, Jesus will be tested by all three of the groups that made up the Sanhedrin – this ruling party that governed Jewish religious and much of their civic life. Today's passage in Mark 12:13-17 is the first of these tests from the group known as the Pharisees. Beginning with this story, each of the three groups, Pharisees, Sadducees and Scribes question Jesus to test Him. The Pharisees will bring the question of taxation, the Sadducees, the question of the resurrection and the Scribes, the question of Scriptural interpretation. We will not get to the last one until after the New Year. In each event of questioning, Jesus demonstrates his authority, which we saw last week was established at his baptism by John and has characterized his entire ministry. And remember, the context in which these groups are now seeking to question him. **Mark 12:12** leads into these confrontations by telling us, **¹² And they were seeking to arrest him but feared the people, for they perceived that he had told the parable against them. So they left him and went away.** They are looking for a reason to arrest Jesus to undermine his influence in society. And it is towards that purpose, we see these three confrontations happen. Let's begin by reading our passage for today, Mark 12:13-17 and see this first confrontation with the Pharisees. **¹³ And they sent to him some of the Pharisees and some of the Herodians, to trap him in his talk. ¹⁴ And they came and said to him, "Teacher, we know that you are true and do not care about anyone's opinion. For you are not swayed by appearances,^[a] but truly teach the way of God. Is it lawful to pay taxes to Caesar, or not? Should we pay them, or should we not?" ¹⁵ But, knowing their hypocrisy, he said to them, "Why put me to the test? Bring me a denarius^[b] and let me look at it." ¹⁶ And they brought one. And he said to them, "Whose likeness and inscription is this?" They said to him, "Caesar's." ¹⁷ Jesus said to them, "Render to Caesar the things that are Caesar's, and to God the things that are God's." And they marveled at him.**

Last week of course, we saw Jesus confronted by the Sanhedrin. They were confronting him on the theological question of where his authority to do things only someone with the authority of God himself could do, came from. Jesus's answer outsmarted their request and pointed out their deceit. If the theological question would not discredit Jesus and let them have reason to arrest him, perhaps a different approach was in order. The approach these Pharisees took this time would be to find something that would discredit him to the Roman government and find a civil government reason to arrest and punish him. So, it makes sense that the Pharisees would be joined in this confrontation by the Herodians. The Herodians were primarily a political party whose members were aligned with the Roman ruler Herod. This alignment to Rome would of course put them at odds with the Pharisees who were against Roman rule, but it is clear that hatred of Jesus outweighed their differences with the Religious Pharisees. As before this is not a sincere question. Verse 13 is clear, their intent is to "trap him" by his words. They want him to say something that would incriminate himself as an insurgent against the government. If they would have had recording devices at that time, they would have definitely had them turned on and ready to record every word he said so they could turn it in to government officials if they caught him saying anything illegal.

Of course, if Jesus had answered them in a way that seemed in any way to undermine the Roman government, there would have been an immediate opening to arrest him. But

there was also another dilemma in this question. By answering with a direct response of yes, you should pay taxes to Rome, would have discredited him in the eyes of the people of Israel. So, either answer would get the Pharisees and by extension the Sanhedrin a desirable outcome. So, they wanted to try to get him to let his guard down. They approach him with flattery in verse 14, , **“Teacher, we know that you are true and do not care about anyone's opinion. For you are not swayed by appearances,^[a] but truly teach the way of God.** The funny thing is that they are exactly right, even though they don't believe it themselves. And, since those words about Jesus are actually true, as a man who was not **“swayed by appearances”** he was not fooled by their flattery as we see in verse 15. ¹⁵**But, knowing their hypocrisy, he said to them, “Why put me to the test?... As 1Samuel 16:7 reminds us, “...the Lord sees not as man sees: man looks on the outward appearance, but the Lord looks on the heart.”** The Son of God is not fooled by the flattery of insincerity. He knows the true intent in their hearts and he answers them in such a way that no one could accuse him of any wrongdoing, and at the same time teaches us a lesson about Christian discipleship in the context of national identity. Look again at his answer starting in verse 15. **Bring me a denarius^[b] and let me look at it.”** Jesus is specific about a denarius, because the tax they were discussing was a poll tax or a tax placed on everyone in the Roman world, every single year. This universal tax was first put in place in 6AD and was hated by many. The cost of the tax was one denarius per person, and the denarius was basically one day's wage in the area of Israel and Palestine at that time. So, in addition to whatever other taxes you may owe throughout the year, everyone in the Roman empire essentially worked one day out of the year for the emperor. But there was a unique feature about this denarius that Jesus points out to make a powerful point. Verse 16 says, ¹⁶**And they brought one [the denarius]. And he said to them, “Whose likeness and inscription is this?” They said to him, “Caesar's.”** The denarius was a silver coin that at that time had the image of Tiberius Caesar on one side, the current emperor, with the words, “Tiberius Caesar Divi Augusti Filius Augustus” (Tiberius Caesar Augustus, Son of the Divine Augustus). The reverse side of the coin had an image of Tiberius's mother, Livia and the inscription, “Pontifex Maximus,” meaning “high priest”. Then Jesus uses this fact to hit them square in the face with his point in verse 17. ¹⁷**Jesus said to them, “Render to Caesar the things that are Caesar's, and to God the things that are God's.”** If Caesar wants to claim this coin, give it to him. It has his picture on it. But, you insincere religious leaders who lead people away from the true God, you offer to God what is truly his. Remember, he has called out already the false worship of the temple. He has repeatedly pointed out the hypocrisy of the worship and legalistic pride that the Pharisees show in their practice of keeping the Old Testament law. It's no wonder that we are told at the end of verse 17, **And they marveled at him.** What else could they do? Jesus had once again turned their obvious attempt at getting him into trouble into a rebuke for them and a point of teaching for any listening. And he had done without giving a direct answer that would have angered many on all sides.

But this is not just a great story of Jesus's brilliant ways of using words and examples to make the religious leaders look foolish. Jesus is teaching us in this passage truth that applies at all times for those who are called the people of God. So, within this passage lies timeless truth that applies to the church today. Now, of course we don't live in the Roman empire and we don't carry denarii in our pockets as money. But we are citizens of some country and unless you are visiting Japan on a tourist visa, at the present we are all in here residents of the country of Japan. So, could Jesus have something to say

in his short comment here on taxes? Of course he does. The easiest point to see is that Jesus is clearly saying the government has the right to collect taxes. But what he is saying goes beyond this. He is saying that for the people of God living under that government, we do not have the right to refuse to pay those taxes. You may say, “but Ben, what about all the ungodly things my tax money goes for?” I don’t think the Roman government with its ongoing wars to expand the empire, its forced labor to build roads and aqueducts and buildings was exactly spending tax money on morally good things even at that time. And even when that denarius went to support war and slavery, Jesus says, **Render to Caesar the things that are Caesar's**. But there is an even greater application of this truth here. There were groups of Jews and other nationalities in every land that Rome occupied who wanted nothing more than to throw off Roman authority by a rebellion against the Roman government. In Israel that group was the Zealots, and one of Jesus’s own disciples was described as formerly being a part of that group, Simon the Zealot. Jesus is saying by this statement that his followers cannot be a part of rebellious uprisings against the government. The apostle Paul under the inspiration of the Holy Spirit devotes much more to this idea in Romans 13. There God says through Paul in **Romans 13:1-2, 13 Let everyone be subject to the governing authorities, for there is no authority except that which God has established. The authorities that exist have been established by God. ² Consequently, whoever rebels against the authority is rebelling against what God has instituted, and those who do so will bring judgment on themselves.**

But there is a second part to Jesus’s statement that qualifies the role of any government in this world and defines for us our priorities in our roles as citizens and residents of governments here on this earth. Jesus says, **Render to Caesar the things that are Caesar's, AND to God the things that are God's**. By putting these two ideas together, Jesus is showing that there is a relationship between the two. For Caesar, knowing that there is a God means that earthly powers are limited in some way, because no matter how big and how powerful, no power on earth can reach the extent of God’s power. In fact, going back to Romans 13, all the powers or governments on earth have their origins in God himself. Even the worst rulers we can think of did not exist outside of being established by an omnipotent Sovereign God. So how can we as Christians view the government even if it persecutes us? We can view it as established by God and being used by God for some purpose to advance his kingdom and his glory in this world. We mentioned the role Emperor Constantine played in ending persecution in the Roman Empire a few weeks ago. Let me ask you, was God more glorified by the church that grew numerically, but more importantly grew in a healthy and Biblically pure way under Roman persecution, or by the church that came to be in control over all Europe, but now included those who were not really followers of Christ because it was now the established religion? I believe it was the persecuted church that brought glory to God as Christians showed what it meant to follow Jesus to their deaths in Roman coliseums. Today, will the lukewarm Christianity of much of the church in Japan or America give more glory to God? Or will it be the church that faces official sanction from a government like China or North Korea or Bangladesh or Iran? To our shame, it is many times the church in difficult places that shines the brightest light into the darkness of the world around them. Our primary goal should be to use the time of freedom we have been given to advance God’s glory as much as possible through the proclamation of the gospel while we have the freedom to do so. And a secondary goal should be to determine now that should the day come when that freedom is gone, we will determine

to continue to give to **God the things that are God's**, even when Caesar says our worship is illegal.

Justin was a second century Christian Philosopher who wrote a "First Apology" to the Roman Emperor to try to persuade him to stop the persecution of Christians. He pointed out using this passage in Mark that following Christ meant that Christians made the best type of citizens in the empire as they reserved worship for God, but lived in obedience to the Caesar. *He wrote: And everywhere we, more readily than all men, endeavour to pay to those appointed by you the taxes both ordinary and extraordinary, as we have been taught by Him; for at that time some came to Him and asked Him, if one ought to pay tribute to Caesar; and He answered, "Tell Me, whose image does the coin bear?" And they said, "Caesar's." And again He answered them, "Render therefore to Caesar the things that are Caesar's, and to God the things that are God's." Whence to God alone we render worship, but in other things we gladly serve you, acknowledging you as kings and rulers of men, and praying that with your kingly power you be found to possess also sound judgment.* But there is a reason that we remember Justin the apologist today as Justin Martyr. He stood up for the religious freedom to worship, and he did it at the risk of his life, as he was executed for following Jesus sometime between 162 and 168AD. As Christians we are citizens of two worlds, and we are supportive citizens of the state as far as we can go, until we are told how and who we should worship, and then the state has usurped the authority of God and cannot be obeyed.

You see the state prints the image of a man on a coin, but God has planted his image on the hearts of mankind. That denarius may have had the image of Caesar, so when the state says to pay taxes, they have the right and we have the obligation to do so. But when that same state says to humans you must or must not worship in a certain way, there is a different image stamped on us and in our hearts as created beings. **Genesis 1:27 tells us, So God created man in his own image, in the image of God he created him; male and female he created them.** The state can demand our money, but God demands our lives. God demands our worship that glorifies him as the creator. To **Give to God that which is God's** means that we worship and serve him above all. Are you a worshipper of God? Have you accepted Jesus Christ as your Lord and Savior, because that is the only way to enter and worship into the presence of God the Father? As a worshipper of God, are you using the freedom God has blessed you with in this country to show to the world whose image you bear? Or are you hiding it in fear of what someone may think of you or the friendships you may lose? There is a church around the world that goes out to share the gospel everyday in societies where sharing Christ is restricted, and yet they continue to go and the church continues to grow. Will we join them in going out to proclaim the gospel as citizens of two kingdoms, submitting to the lesser kingdom here on earth, while obeying the King of Kings and Lord of Lords whose image we bear? Let's pray